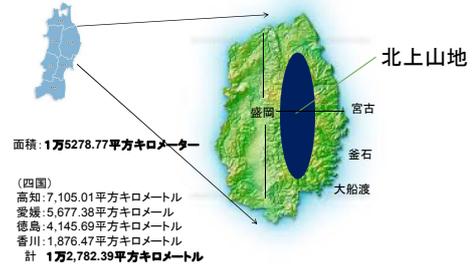


東日本大震災での医療活動

岩手医科大学
災害時地域医療支援教育センター
災害医学講座

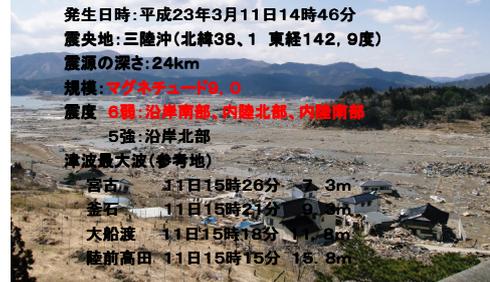
岩手県の地理的条件



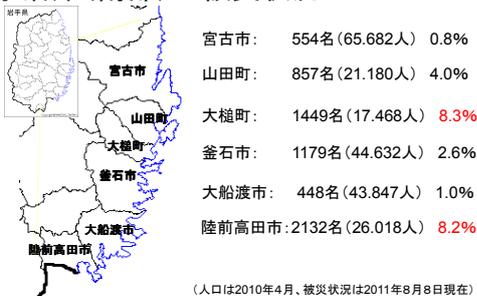
岩手県の交通網



東日本大震災・津波

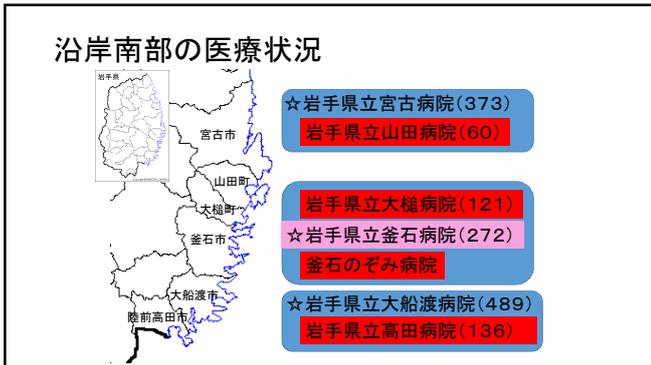


岩手沿岸(南部)の被災状況



沿岸南部の医療状況





- ### 東日本大震災急性期の医療活動
- 災害急性期の重症患者はほとんどいなかった
 - 被災地内病院(災害拠点病院を中心に)の支援
 - 被災地の傷病者を内陸医療機関への搬送
 - 病院避難

- ### 東日本大震災急性期の医療活動
- 災害急性期の重症患者はほとんどいなかった
 - 被災地内病院(災害拠点病院を中心に)の支援
 - 被災地の傷病者を内陸医療機関への搬送
 - 病院避難

沿岸3災害拠点病院の患者数

		3月11日	3月12日	3月13日	
県立宮古病院	トリアージ赤	9	9	8	
	入院患者数	46	61	20	
	急患外来受診者数	80	244	220	
県立釜石病院	トリアージ赤	2	7	6	
	入院患者数				
	急患外来受診者数	19	106	194	
県立大船渡病院	トリアージ赤	20	8	5	
	入院患者数	38	42	36	
	急患外来受診者数	105	394	562	
合計	トリアージ赤	31	24	19	74
	入院患者数	84	103	56	243
	急患外来受診者数	208	744	976	1928

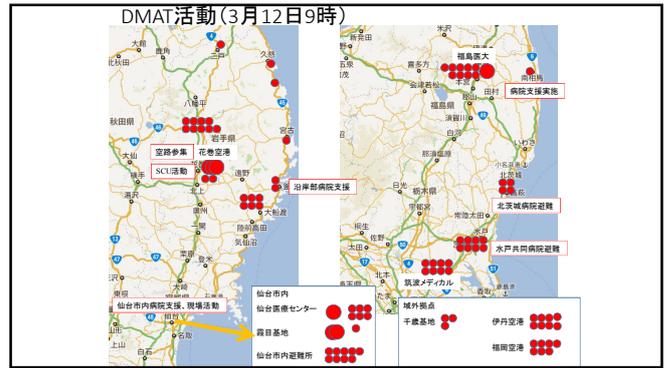
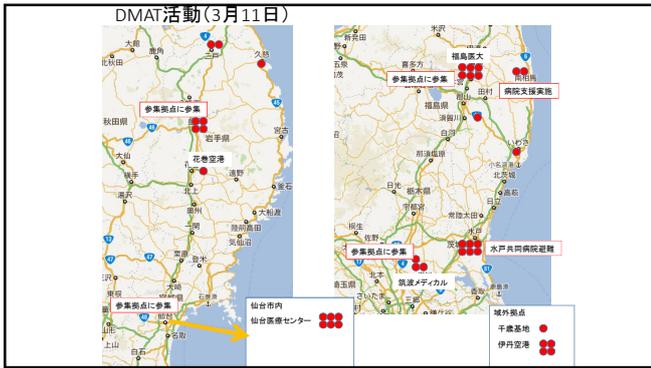
トリアージ区分赤の数・内訳

		溺水(肺炎)	低体温	多発外傷	圧産症候群
県立宮古病院	11日	2	2	1	0
	12日	4	1	4	0
	13日	1	2	1	0
県立釜石病院	11日	4			
	12日	0	1		
	13日	0			
県立大船渡病院	11日	13	4	3	0
	12日	2	1	3	0
	13日	1	2	1	1
合計		27	13	13	1

消化管出血、胆のう炎、糖尿病性ケトアシドーシス
心不全、急性心筋梗塞、不安定狭心症、たこつぼ型心筋症、
肺梗塞、COPD
脳出血、ALS

54/74

- ### 東日本大震災急性期の医療活動
- 災害急性期の重症患者はほとんどいなかった
 - 被災地内病院(災害拠点病院を中心に)の支援
 - 被災地の傷病者を内陸医療機関への搬送
 - 病院避難

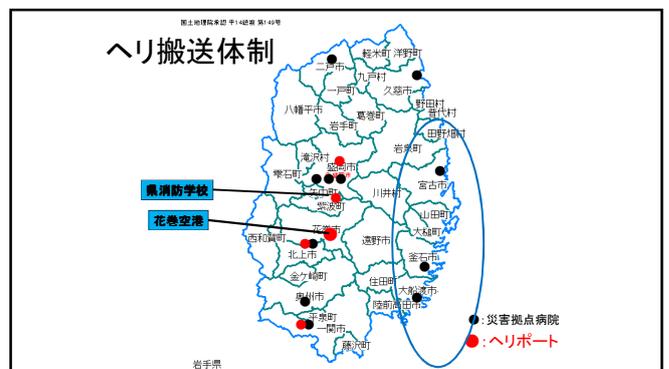


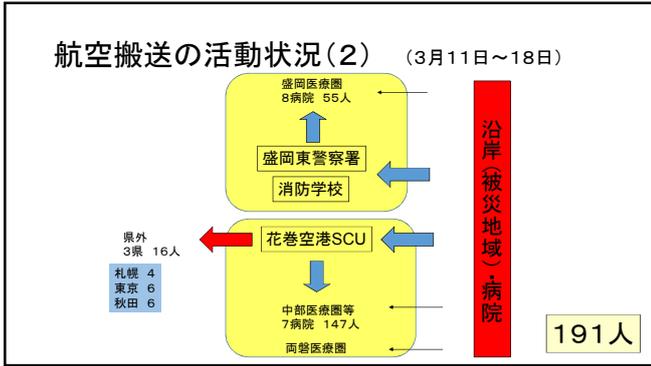
東日本大震災急性期の医療活動

- 災害急性期の重症患者はほとんどいなかった
- 被災地内病院(災害拠点病院を中心に)の支援
- 被災地の傷病者を内陸医療機関への搬送
- 病院避難

内陸の病院への搬送状況

	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	～31日	計
岩手医科大学			5	5	14	21	12	4	59
県立中央			33	3	6	1	5	4	52
県立沼宮内							3	8	11
県立一戸							6		6
県立南水								2	2
支受病院		1	3				5	2	11
橋内病院		1		3		1	1	3	9
									238
岩手医科大学			10	6	18	12	20	11	77
花巻総合			4		1				5
県立東和		17	8	21	7	3	11	41	110
県立中部		7	7	8	1	11	2	6	35
県立遠野		7	6	4	3	11	5	3	39
北上総合									259
県立船沢				8	5		15	25	48
県立江刺					2				39
県立磐井		5	5				7	29	46
県立千厩		42	3	1	1		48	40	134
計	47	52	78	80	51	71	96	532	768人





東日本大震災:花巻空港SCUからの広域医療搬送(16名)

- 3/12: 4名 → 新千歳空港 → 道内医療機関
- 3/13: 6名 → 羽田空港 → 都内医療機関
- 3/14: 3名 → 秋田空港 → 秋田県内医療機関
- 3/15: 3名 → 秋田空港 → 秋田県内医療機関

手段: 自衛隊C-1機

伊丹空港 → いわて花巻空港 (3/12)

自衛隊C130輸送機 4機による
関西から被災地へのDMAT投入

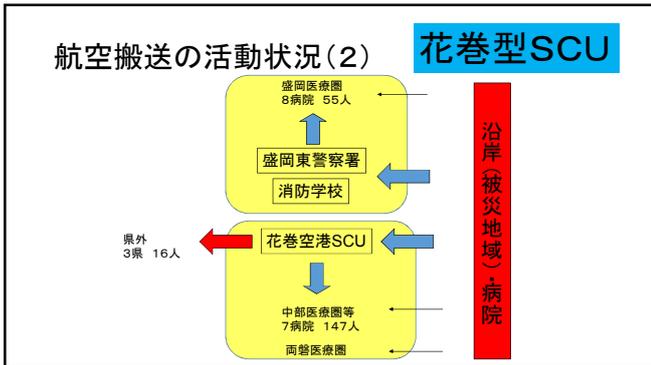
SCU活動と広域搬送



いわて花巻空港参集Drヘリ一覧

	Total	12日	13日	14日	15日	16日
Drヘリチーム	7	6	6	5	5	
機体	7	6	6	5	3	

2011/03/13



- ### 東日本大震災急性期の医療活動
- 災害急性期の重症患者はほとんどいなかった
 - 被災地内病院(災害拠点病院を中心に)の支援
 - 被災地の傷病者を内陸医療機関への搬送
 - **病院避難**

- ### 大規模な入院患者転院搬送・病院避難
- **県立大槌病院** 32名(15日に病院避難)
 - **県立釜石病院** 140名(14~16日がピーク)
 - **釜石のぞみ病院** 125名(14日以降、19~21日に病院避難)
 - **県立山田病院** 24名(16日に病院避難)
 - **県立大東病院** 41名(11日に病院避難)
 - **県立高田病院** 200名(12日に病院避難)

岩手県立山田病院

12日 9時 入院40名
1階浸水、2階へ避難

13日 屋上に避難後現在2階に

14日 7時 患者42名(1名移送、1名死亡)

21時 その後、6名宮古病院へ転院
昨日 赤2名を宮古病院へ

ベット数 60床
常勤医 2名

16日 8時 16人を宮古病院へ
11時 10人を宮古病院へ 2人帰宅

宮古病院へ転院
↓
16日、17日 内陸(盛岡周辺)の病院へ転院

岩手県立大槌病院

12日 12時 院内に50名残っている

13日 9時 患者70名(入院54名)無事
14時 死亡3人
施設に8人移動
院内30人危険状態はなし

16時 院内30人を大槌高校へ移動
その後内陸への移送したい

14日 7時 28人の移送をしたい

16日 施設10人
医療機関 17人
自宅 1人

ベット数 120床
常勤医 3名

県立釜石に転院
↓
その後内陸(中部医療圏へ)転院

大槌高校までの1.5km...

1名の患者を職員3名で車椅子を使用して移動

大槌高校までの1.5km...



避難所の大槌高校まで、坂、坂、坂...

大槌高校での避難患者対応

入り口すぐ近くの
教室に患者収容



活動するDMATの
控え室として
使用した化学室

釜石のぞみ病院(1)

病院154床(一般52床、療養型102床)の 地域の慢
性期医療を支える病院

津波により、病床上湧水となり、地下にあったボイラー、
電気機が停止となる。

数日後、発電機・ストーブ・灯油等を県が提供

⇒ 病院避難



釜石のぞみ病院(2)

転院日	人数
11日	0
12日	0
13日	0
14日	8
15日	0
16日	4
17日	3
18日	0
19日	14
20日	17
21日	16
22日	16
23日	18

入院患者96人の病院避難を実施した
搬送先は内陸の医療機関9病院
搬送手段は自衛隊・病院救急車



岩手県立高田病院



県立高田病院



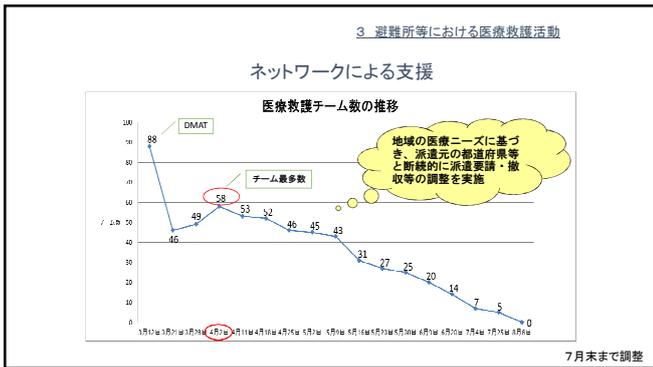
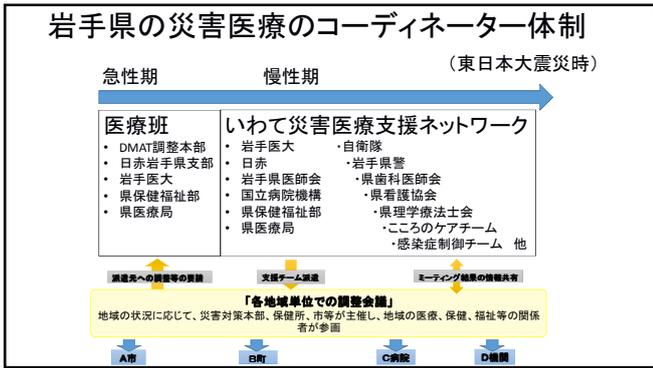
11日 21時 屋上に200人避難、救助要請
(警察経由)

12日 日の出とともに救助開始
14時 ヘリ救助終了

13日 13時 入院52名中15人が行方不明

ヘリコプターで救助し内陸へ

ベット数 136床
常勤医 6名



3 避難所等における医療救護活動



3 避難所等における医療救護活動

支援例:いわて感染制御支援チーム(ICAT)の活動

区分	活動内容
未然防止	① 避難所訪問 ⇒ 避難所の状況把握 (リスクアセスメント) ② 衛生状況、衛生資材の不足等確認 ⇒ 必要に応じて保健衛生指導、消毒薬・殺虫剤調達等
探知	① 定期的な避難所巡回訪問 ⇒ 独自のモニタリング (有症者数入力) 依頼 (役所等・自治組織、保健師チーム、医療チーム等) ② 継続的なデータ把握 ⇒ 還元 (情報提供ほか)
拡大防止	① 日々のモニタリング結果 ⇒ アウトブレイクの高度確認 ⇒ 速やかな対応、突如把握 (ICAT又は保健所出動) ② 感染症等発生調査、必要に応じ隔離、消毒、予防投薬
情報提供	① 避難所向け : 感染症予防情報 (全避難所配布と県公式HP掲載) (感染症発生動向、消毒方法、留意点等) ② 県政機関向け : 感染症対策の暫定方針の明示 (隔離方法、抗インフルエンザウイルス薬の予防投薬等)



4 医療提供体制の復旧・復興について



4 医療提供体制の復旧・復興について



4 医療提供体制の復旧・復興について

